



CSたより

3号

コミュニティ・スクール

師走に入り、日増しに寒さが厳しくなってきました。街を歩きかう人々も、忙しさの中、足早に通り過ぎていくように感じます。4月からスタートしたコミュニティ・スクールも数多くの活動をやり遂げてきました。また、12月7日（水）に実施された第2回学校運営協議会では、活動報告と協議がなされ、質問や意見がメンバーから出され、大変充実したものになりました。



学校と住民が一丸となって新たな地域教育を作り上げる取り組みに贈られる「文部科学大臣表彰」に朝日町の「学校運営協議会」と「町地域学校協働本部」が選ばれました。これは、県内初の受賞で、とても喜ばしいものです。とても嬉しい受賞で、新たなスタートとして頑張っていきたいと思えます。表彰式は2月3日にあります。詳細は次号でお知らせいたします。

なぜコミュニティ・スクール？

朝日町学校運営協議会

会長 南 茂 敬 子

朝日町では、教育改革が他市町村に先駆けて進められています。保護者や地域住民が一体となって学校運営に参画する「コミュニティ・スクール」も、今年4月にいち早く導入されました。学校が抱える課題、地域が抱える課題を学校は学校だけで、地域は地域だけで解決しようとするのではなく、互いに目標や課題を共有し、学校と地域が一緒になって子供たちの教育を担っていく仕組みです。「ふるさと学習支援部会」「登下校安全支援部会」「放課後支援部会」「学校部活動支援部会」の4つを柱とした「地域学校協働活動」と一体的に推進することで、一層の成果が期待できます。

4月27日に行われた第1回学校運営協議会では、柱となる4つの部会に地域住民の皆様からの協力を得ることにより、「登下校や放課後の安全対策や教員の働き方改革を推し進めることができる」「主体的・対話的な学びを通しての質の高い授業が展開できる」など、学校にとっては大変有効であるということが確認されました。また、小中学生と地域の皆様が関わりをもつことで子供たちの地域への愛着心が深まることも大いに期待できます。

12月7日に行われた第2回学校運営協議会では、これまでの実践の成果と課題を明らかにし、よりよい方向へ導くための対策を協議しました。

目標としているのは、未来を担う子供たちの豊かな成長です。学教教育におけるICT化や教員の働き方改革に重きを置き過ぎ、時間にせかされてゆとりある学校生活が送れない、みんなで考えを出し合っただけで学ぶ授業が少なくなったなど、「学校で学ぶよさ」が損なわれることのないよう、「計画、実行、評価、改善」のサイクルを大切にしていきたいと考えています。

第2回学校運営協議会



12月7日(水)、あさひ野小学校において第2回学校運営協議会が開かれました。

- 町教育委員会の水野真也局長から、新聞記事や教育雑誌、テレビニュース等を用いて、本年度の実践内容とこれから町が取り組もうとしている教育について報告がありました。

1 朝日町未来創造DXプロジェクトについて

町教育委員会では、来年度から官民協働で「社会起業精神」を育成するプロジェクトを小中学校で始めます。町の課題を見つけて解決を目指す、探究的で社会性の高い学びを実践していきます。学習のねらいは、自らの課題を発見し解決する力を育成することにあります。

試行期間にあたる本年度は、博報堂と連携しながら、総合的な学習の時間(10時間)を利用して「困っている人を元気にするには」をテーマに、さみさと小学校とあさひ野小学校の6年生が真剣に学習を進めました。自分の知らない知識や解決方法に出会い、子供たちの目が輝く瞬間が印象的でした。

※ DXとは、デジタル・トランスフォーメーションの略語で、デジタル技術の活用によって、社会や生活、ビジネスモデルなどをよりよいものに変革していくことを意味しています。教育現場においても、データやデジタル技術の活用によって、学校教育の在り方や教育手法の変革を行っていかうというものです。

2 教員の働き方改革について

社会的な問題となっている教員の長時間労働の解消に向けて、4月の学校運営協議会で、休み時間や清掃時間、下校時刻の見直しを行いました。また、中学校の放課後や土日の部活動の在り方等についても、「部活動コミュニティクラブ」として、地域の指導者に指導を依頼する具体的な改革を進めてきました。今後も、教員の働き方改革をさらに進めていきたいと思ひます。

- 統括的な地域学校協働活動推進員の深松 茂さんから、朝日町地域学校協働本部の4つの柱について報告がありました。

1 ふるさと学習 支援部会

地域学校協働本部が関わったふるさと学習は、31(12月7日現在)ありました。しかし、この他にも学校独自に進めたものも数多くあり、小中学校では、ふるさと科の学習が広く行われてきました。また、学校だよりやCSたより等でも、活動内容を町民や保護者の皆様方にお伝えしてきました。

2 放課後 支援部会

① 学力向上支援サポート事業

毎週、火・水・金曜日に実施してきました。対象者は、希望する中学2年生と3年生です。現在、参加人数は40名です。内容は、数学と国語、英語となっています。



指導者は、教員OB（吉本久信先生、弓野秀人先生、南茂敬子先生、西尾幸子先生）と卒業生である大学生4名です。朝日町の子供たちのために指導してくださっています。

子供たちの感想

- ・ 分かりやすく、丁寧に教えていただいたので、苦手な応用問題にも自分から解こうと思うようになりました。
- ・ とても分かりやすく教えてくださるので、苦手科目を克服することができました。
- ・ 自分が勉強したいところを教えてもらえるので、とてもよかったです。

② あさひ野っ子放課後児童クラブ

子供たちの放課後の過ごし方の一つで、子供たちの様子や学校や保護者との連携をみると、よりよい関係が続いており、保護者も安心して子供たちを託しています。来年度以降も継続していく予定です。

3 学校部活動支援部会

朝日町型部活動コミュニティクラブ

従来の部活動を競技経験のある町民に一部任せ、より専門的な指導を子供たちに行っています。これらは、教員の働き方改革にも大きく寄与しており、教員が、子供一人一人に向き合う時間が増えて、教育の質が高まってきていると考えています。

10月末現在、朝日町型部活動コミュニティクラブとして活動しているものは8つあります。バスケットボール、柔道、剣道、卓球、陸上、テニス、バレーボール、吹奏楽です。

4 登下校安全 支援部会

① 「朝日町通学路交通安全プログラム」に基づく合同点検及び推進会議

- ・ 通学路合同点検（7月20日実施）
学校からの通学路危険箇所情報に基づき、危険箇所10箇所及び地区要望等から危険箇所7箇所を確認しました。
- ・ 情報公開（町ホームページにて、9月6日更新）
今年度新規指摘箇所+前年度までの公開箇所の更新情報を公開しました。
- ・ 通学路安全会議（10月19日）
7月20日の合同点検箇所に対する対策の方向性や見通しを確認しました。合わせて、情報提供の在り方や次年度の進め方を議論しました。

② 交通安全見守り隊連絡会議

今年度より、地域学校協働本部の中に交通安全見守り隊を設置し、日頃から子供たちの安全を見守っていただいている関係機関の方々と情報交換会を行いました。

- スクールバスの運行管理者である折谷克則さんから、運行状況と課題について提案があり、協議しました。



冬期スクールバスについて、バスの台数や運転手の人数、運行経路の維持を考えると、学校においては、学校までの距離が2km以上の場合にバス通学可という距離要件を来年度から維持したい。学校までの距離が2km未満の場合、前述の理由からスクールバスへの乗車を認めることは難しいというものでした。協議した結果、スクールバスの運行原則（学校まで

の距離が2km未満の場合は、スクールバス乗車はできないが決定されました。なお、中学校の場合、同様に4km以上という距離要件が適用されます。

11月に実施された「ふるさと科」

○「舟川新の耕地整理」(11月14日)

小学4年生の社会科の学習には「きょう土のはってんにつくす」があります。朝日町の舟川新は、明治期に藤井十三郎と山崎市次郎が、将来への希望と強い意志のもと、50戸ほどの散居村を移転させて見事な新村落へとつくりあげました。ふるさと科応援隊の水野瑠美子さんから当時の苦労等を聞き、郷土に尽した2人の人物について学びました。



藤井十三郎の庭にあったスギの木です。この一本を地鎮として残し、あとのスギはすべて伐採して、耕地整理の費用にあてたそうです。

子供の感想

- ・ 私のおばあちゃんは、舟川新にいます。おばあちゃんの家に行くと、家がとてもきれいに並んでいるなと思うときがありました。それが、昔行われた耕地整理のおかげだと知り、とても驚きました。

○ 泊鉦(とまり なた)(11月17日)

小学4年生が、桜町にある大久保の鍛冶屋さんに行きました。泊鉦(とまり なた)の造り方を見学し、長年、泊鉦を造っている大久保中秋さんからお話を聞きました。黒部ダムや青函トンネルをつくる際に、泊鉦の素晴らしさを見込まれ、大量の注文がきたことを聞きました。



子供たちの感想

- ・ 鉄をハンマーで打って、伸ばしているところを初めて見ました。火花がとんでいるところも初めて見ました。まるで、火花が花火のようで火花がとんだときはびっくりしました。
- ・ びっくりしたことが2つありました。1つは、大久保さんが92歳で、この仕事を77年間もして頑張っていることです。2つ目は、この仕事の刻印(桜の刻印が鉦に付けられている)が親方から親方に引き継がれていて、仕事の歴史を感じました。

12月にも、それぞれの学校が「ふるさと科」の学習を進めているものがたくさんありました。子供たちの心に、ふるさと朝日が深く浸透していっていることに喜びを感じています。



3月には、第3回の学校運営協議会があり、今年度の評価がされる予定です。

地域学校協働本部 (朝日町教育センター内)
電話・FAX: 83-0279 担当 山崎
Email: asahi.chiikigakkoukyoudouhonbu@gmail.com